

図1 血液浄化回数推移

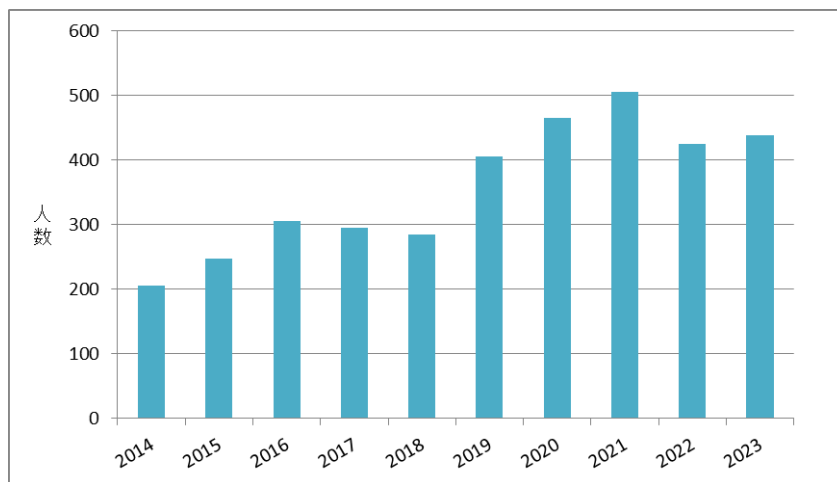


図2 他透析施設からの紹介患者数推移

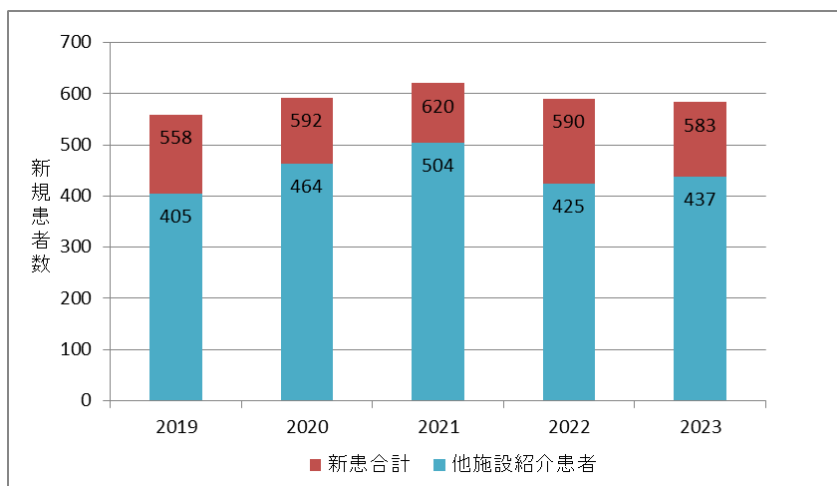


図3 新規患者数に対する他施設紹介患者の割合

他施設からの紹介患者の紹介理由は、CAG や PCI、EVT といったカテーテル治療目的が最も多く、2023 年は全紹介患者の 40%がそれであった。ここ数年は、年間に 270 回前後、透析患者にカテーテル治療を行っている。(図 4) 当院ではほとんどが透析日にカテーテル治療を行い、その後透析をおこなっているが、カテーテル治療後の透析は血圧が下がりやすく、十分な透析ができずに翌日追加透析を行うことが度々起こっている。カテーテル治療後の透析については、エビデンスもなく不要と言われており、今後はカテーテル治療翌日に透析するようできないか、主科に働きかけていきたい。

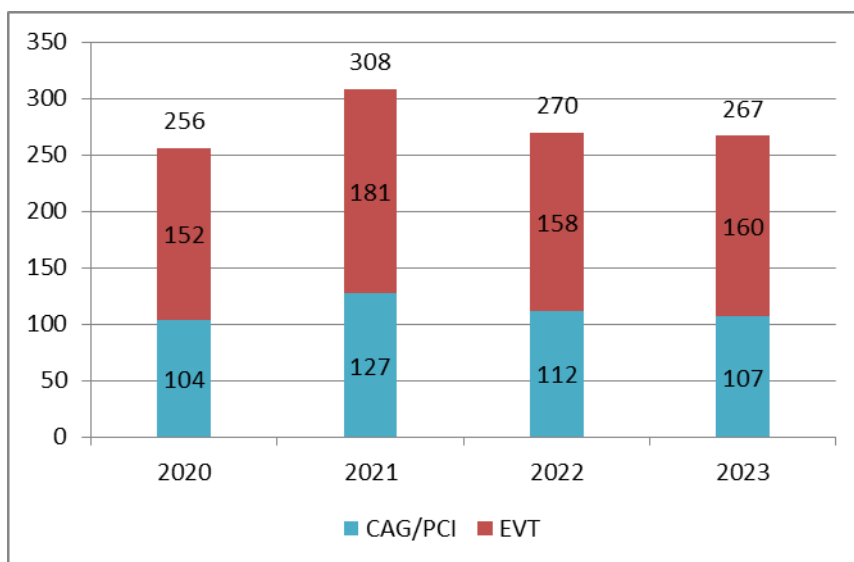


図 4 透析患者に対するカテーテル治療回数

### アフエーシス

特殊血液浄化(アフエーシス)の総回数は 385 回と毎年増加している。CRRT(持続的腎代替療法)とレオカーナが治療回数が多く、ほぼ毎月行っており、その二つで全体の約 60%を占めている。(図 5) 血漿交換は例年よりやや多い 89 回であった。

レオカーナは、外科的治療や EVT を行っても改善が望めない潰瘍を有する閉塞性動脈硬化症に対して導入しているが、導入後一時的に良くなり紹介元に帰院しても、再度悪化し EVT や切断目的で紹介されてくることも多い。

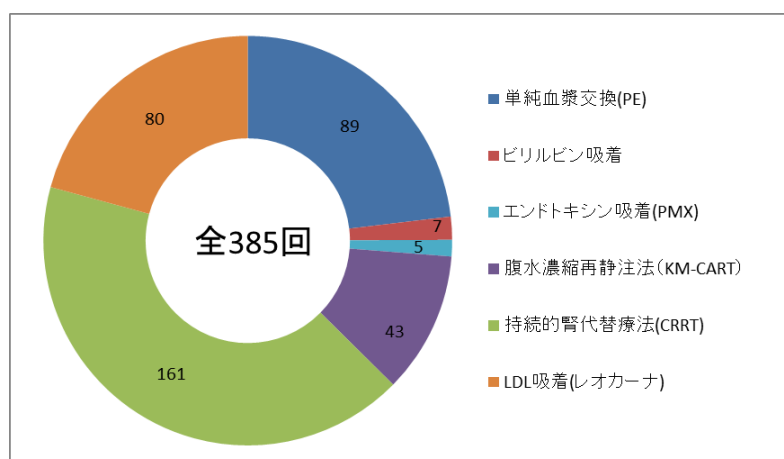


図 5 アフエーシス別回数

CRRT も昨年より回数が増加し 42 症例に 161 回行っている。42 症例中 17 症例(40.5%)が死亡となっている。以前は 2～3 日 CRRT を行い、以後は離脱もしくは IRRT(間欠的腎代替療法)へ移行することが多かったが、2023 年は治療日数が長くなる傾向がみられた。(図 6) CRRT は IRRT と合わせて 1 ヶ月に 14 回しか算定できないが、主科がそのことを知らずに指示を出していた。そういったことも専門であるこちら側から周知していく必要がある。

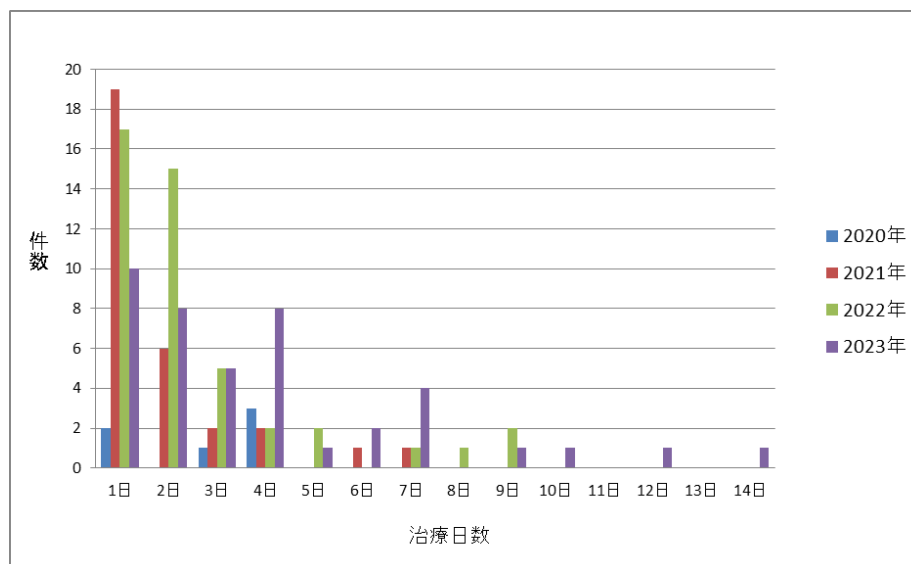


図 6 CRRT の治療日数の推移

### 透析関連装置

2020 年に 41 台中 20 台の多人数用コンソールを買い替え、2023 年は残りの 21 台を新しくした(JMS 社製 GC-X01:11 台、日機装社製 DCS-200Si:10 台)。これにより、全てのコンソールで I-HDF、オンライン HDF が選択可能となり、治療の幅が広がった。

病棟透析用の個人用コンソール(日機装社製 DBB-200Si:5 台)と個人用 RO 装置(ET-RO I :5 台)もそれぞれ更新した。ET-RO I は日本製の装置で使い勝手がよく、病棟透析の対応が今まで以上にしやすくなった。

### 人事

4 月に新卒技士 1 名入職し、血液浄化チームは総勢 13 名となった。しかしコロナの感染拡大時はその対応に人手を取られ、またスタッフがコロナに感染し出勤できなくなることもあったため、勤務練りは大変であった。また経験の浅いスタッフが増えたことにより、ベテランスタッフへの負荷が増している。卒後教育を一層強化し、若いスタッフのレベルアップが急務である。

### 最後に

新しく宇都宮慧医師が赴任され、吉村部長、澤村医師と合わせ腎臓内科医が 3 名になり、より多くの紹介患者に対応できるようになりました。医師が増えることにより、いつでも相談できる安心感があり、血液浄化チーム一丸となって、高知県の透析医療を支え地域医療に貢献していきたい。

## 学術発表・講演会等

### 学会発表

演題	発表者 共同研究者	学会名	開催
当院におけるコロナ陽性患者に対する透析療法の実態	大崎志保、岡本歌織、吉村和修	第 49 回高知透析研究会	2 月 26 日 高知